

静岡中部地域の広域受援と道路啓開セミナー

- 日時：令和4年1月19日（水）15時00分～
- 場所：札の辻クロスホール
- 主催：国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所（後援：静岡県）
- 参加：約130人（コロナ対策で定員の60%）



【基調講演】

富士山噴火と南海トラフ

京都大学 名誉教授
鎌田 浩毅 氏



- 「伝える技術」が大事。このファッションもその1つ。関心を持って話を聞いていただきたい。
- 2035年±5年に南海トラフ地震、その後富士山噴火が発生。南海トラフ地震の被害総額は220兆円、死者32万人と東日本大震災の10倍の被害が想定。
- プレートにかかるストレスによって地震が引き起こされるが、火山にも同様にストレスがかかる。このため、南海トラフ地震後に、必ず富士山噴火も発生する。
- 南海トラフ地震の発生確率が、30年以内に80%と言われても一般の方には分からない。商売なら納期と納品量が必要。そこで、2035年±5年と納期を決めて、東日本大震災の10倍の被害と納品量を定めた。これに向かって準備が必要。
- 今から準備していけば、6～8割は被害を減らせる。大事なものは、堤防・道路などのハード整備だが、ソフト対策も重要。
- 行動に移してもらうため、「美味しい防災」「楽しい防災」を考えている。皆さんも是非周りの方に伝えていただきたい。

【セミナーⅠ】

南海トラフ地震における静岡県広域受援計画について

静岡県 危機管理部 危機対策課
危機調整官

藤本 啓一 氏



- 大規模災害時に国などが実施する支援活動を、迅速かつ円滑に受け入れ、被災者の救助等を行う体制を確保するため、県、市町および防災関係機関等が実施すべき事項を説明。

【セミナーⅡ】

静岡県中部地域の道路啓開計画について

国土交通省 中部地方整備局
静岡国道事務所 副所長

渡部 達宏 氏



- 大規模災害発災後における初動期活動として、道路の通行を確保する道路啓開活動の概要を説明。